云うことかと尋ねた。その子は「大きな女の人に会ったら，『モシモシ』とか，『お早ようございます』とか云っても良いが，名前を呼んではいけません。でないと嫌われます」と云った。此の兒童は粗野な行爲は，そのために人から嫌われるけれども，処罰には値しないと云うことをどうにかこうにか知っていたのである。二年生としてはその位の考え方でよいのであるが，まだまだ前途遼遠である。と云うのは，彼は婦人達が名前を呼ばれることから受ける不快については考えていないからである。

正義とは，自分が前後矛盾しないとか，間違っていないとかそれだけの事柄ではない。正義とは辞書が定義しているように，積極的に「正しいことを行うこと」又は「公正に振舞うこと」である。子供はその感じを言い表わす言葉を知るようになるよりうんと以前に，正しいことを行うものの深い満足を味わうことが出來るのである。ある小さな男の子が林檎を盗んだと云って不実の咎めを受けた。彼は自分を誣いた人に向って行って自らの寃を雪いだ。彼は後になって，こう云った。「ね，自分が正しいと知っている時の氣持は何とも云えないや。」

我々は子供がこのような社会的概念を，生活環境の中で，それを実行することによって学ぶ外に，形式的な教育をする学校に於けると同様に，否それ以上に，多くの

教科内容をも学習することを期待するものである。教科内容の種類と，それを学習する順序と，学習に用いられる方法とは，兒童の発達の程度によって決まるのである。

3. 社会科に於ける兒童の興味と欲求

子供は実際には，或る内的衝動(ドライブス)のために学習するものであることを，教育者は学んでいる。その衝動は次のようなものである。

大人の生活劇化の衝動

工作，組立の衝動

身体的活動の衝動

傳達の衝動

藝術的表現の衝動

好奇心

こう云う衝動もしくは欲求を満足させることが許されるならば，子供の学習は一層徹底的になり，その学校生活全体が彼等にとって一層満足なものになるであろう。それ故，社会科学習の方法としては，読書，地図やグラフその他の材料の研究，問題解決，劇化，見学旅行，工作組立，工藝等が挙げられる。

兒童について研究した学者達の決定したところによると，社会科に於ける兒童の興味は次の通りである。一年生は家庭及び直接的な近所に興味をもっている。二年生

では経験が少し廣くなるから，一層廣い地域社会（コンミュニティ）（市町村）及び彼等が接する市町村の公務員の機能が興味の中心となる。三年生は更に廣い社会に興味をもつようになり，商店で賣られる商品は何処から來るか，その地方の産物は何処へ行くかと云うことを知りたがる。こう云う事柄の学習は兒童を遙か遠くに迄引っ張って行く。家や商店や汽車のような近代的便益のなかった時代の人々はどんな生活をしていたかについても，好奇心をもつようになる。四年生は時間，空間についての或る概念をもち始める。此の年齢の兒童は，海の彼方の人とか昔の人とかについて好奇心をもっている。五年生は自分の住んでいる社会，およびそれがどうしてそんなになったかということについて興味を持っている。六年生は科学的に進歩した交通及び通信機関に興味をもつ。以上述べたことは絶対的事実として受取られるべきでなく，ただ一般論に過ぎぬものである。例外もあり，又両学年の興味が一部重なり合っていると云うこともある。

以上述べて來た原理と理論が教室内で如何に運用されるかを特に劇遊びを中心として，述べよう。

第四章　社会科に於ける劇遊び

1. 劇遊びの意義

劇化の欲求は総ての人間の本性に根ざしているもののようである。大人の生活も子供の生活も此の欲求に左右されている。大人が芝居をしたり，そうでなくても職業的俳優が演じる芝居や映画を見たり，戯曲や本を読んだりするのは，他人の喜び，悲しみ，誇り，恥を我が身のことのように味得して，それによって自分の生活の不如意や挫折を一時的に忘れようとするのである。

小さい子供にとっては，大人の生活は自分達の生活よりずっと申分ないもののように見える。大人は好きな処に行ったり來たり出來る。何を着るか，何を何時食べるか。何時寢るかを，自分で決めることが出來る。小さな子供は大人の生活を劇化することによって，自分の生活の色々な制限から脱れ出るのである。子供が遊ぶ時に，よくこんなことを云う。「家ごっこをしよう。私はお母さんになる。」とか「学校ごっこをしよう。僕は先生。」とか「汽車ごっこをしよう。僕は機関手になる。君達は見る人。」とか云うのをよく耳にする。

教育者が到達した結論は，教室で教師の周到な指導の

下に劇遊びをさせるのは，児童が社会科に於て事実を習得し原理を把握する最も効果的な方法の一つだと云うことである。大人の生活を劇のようにしてまねる衝動は子供の主要な欲求と考えられるが，こう云う劇遊びで他の五つの学習への自然的欲求も満たされるならば，この遊びは児童にとって一層申分がなく，教師の目的にも一層よく合致するのである。今云った五つの欲求とは好奇心と工作組立の欲求と，傳達の欲求と，美的表現の欲求と，身体を活動させる欲求である。

2. 劇遊び指導の方法—低学年の場合

子供が始めて学校に上ると，彼は自分の家庭を劇化したいと思う。何故なら，彼が劇化出來る程充分に知っている社会的團体は家庭だけだからである。積極的な子供は間もなく家ごっこには満ち足りて，郷土(コンミュニティ)(市町村)にまで進みたいと思う。食料品屋が遊びの中にはいって來るが，子供達は食料品商の生活を充分に知らないから，その役を正確に勤めることが出來ない。遊戯がめちゃめちゃになる。子供に問題が起って來る。そこで教師の助け舟がはいって，問題の所在とそれを解決する方法が明らかになる。教師は児童と一緒に食料品商見学を計画する。此の見学で児童は食料品商についての好奇心を満足させ，次のような疑問に対する解答を得る。「食料品商は

何をするか」「人々は何故彼に金を與えるか」「彼はその金をどうするか」「彼は何処から品物を得るか」「誰が彼を手傳うか」。子供は学校に帰ると，学んで來たことを遊戯のプランの中に取り入れる。そこで劇遊びは前より正確になり，一層申分のないものになる。子供達はかくして，郷土理解の助けになる事柄を習得し，その上集團生活上の或る原理を学びつつあるのだから，教師はそれだけで満足してよい。教師は何事も教訓化しないで集團生活では人は相互依存的であること，又集團生活では権利には義務がつきものであることを，兒童が自然に理会するように指導して行く。幼稚園及第一学年兒童の注意継続時間は短時間であり，一方彼等の好奇心は絶えず移って行き，郷土内の色々のものに飛んで行くのであるから，教師としては，子供達の家庭に最も近くつながっている郷土生活の様々なものについて学ぶ機会を與えて，兒童の劇遊びが豊富になるように助けてやらねばならぬ。

教師は劇遊びを豊富にし，現実的にするために僅かばかりの道具を與え，工作，組立の衝動を利用するが，必要を充分に満足させるほどの道具は與えない。完成品を少しばかり與えて，子供に更にその上の必要を訴えさせる。必要を訴えた場合には，材料品を與え，それで自作の道具を作らせて，必要を充たさせる。年少の兒童の想

像力は色々な道具をそのまま必要な道具に変えることが出來るし，非常に粗末な材料を使っても，遊戯の妨げにはならない。木片が機関車になるのである。彼等は想像力によって，必要な動力と音響効果とを作り出すのである。かくして低学年では，すばやく遊戯の準備が出來るから，実際の劇遊びに社会科時間の大部分を充てることが出來る。

劇遊びのプログラムの中で，計画したり，質問したり，討議したり，評價することによって，子供の傳達の衝動は絶えず満たされる。教師は，子供がみんな役割をもち，感情を出來るだけ抑え，考えることを大事にし，討議が主題から脱線せぬようにする爲め，知能と技術とのあらん限りを盡さねばならぬ。教師は兒童が発言している時，必要によっては指導や管理によってその兒童が皆から聽いて貰えるように助けてやることもあるが，大体兒童各自が，人に傾聽され理会されるように，充分各自の責任を盡すようにさせるのである。

美的表現の衝動は，劇遊びの中，リズム的動作や道具の取付けや音樂的表現によって満される。美的表現は屢々劇遊びとそれに関する動作から出て來る結果であり，実際には遊戯の中には取り入れられないことが多い。こうした学習活動から得られた知識と態度とが美的表現に

刺戟と内容とを與えるのである。

3. 劇遊び指導の方法—中・高学年の場合

中学年でも劇化の欲求がなお社会科に於ける学習活動の主な欲求であるが，此の欲求を満たす手段は低学年で用いられた手段とは，或る程度違っている。中学年児童は恐らく，昔の人々や外國の人々のことを，その生活を劇に再現することによって学習していることであろう。彼等は昔の人の基本的な必要を充たさんがための闘爭を劇に演ずることであろう。又昔の人の祭典とか，政府の機関とか，教育の組織とかを劇化する。知識の欠如のために，劇が行き詰まりになることが多く，劇を正確にするためには，こう云う昔の人々について知りたいと云う好奇心が満たされねばならぬ。直接的な知識を得ることは出來ないのであるから，中学年の児童達は屢々読書とか，絵を見るとか，地図やグラフを研究するとか，知識のある人に聽くとかして，問題を解決しなければならない。

中学年児童は，或る発明が文明に如何なる影響を與えたかについて，研究しているかも知れない。彼等は低学年の時のように粗末な道具立には満足しない。近代的な交通機関は人々の生活に如何なる影響を與えたかについて学習しているならば，彼等は恐らく，模型の町を作る

ことであろう。機関車と汽車が要るならば，それは機関車なり，汽車なりに見えるものでなければならない。其の他，停車場，信号機，倉庫等のような模型も悉く，注意深く作られ，実物と違わない均衡の取れたものでなければならない。若しも外國の人々について学習しているのなら，衣裳や家や道具や絵に描いた背景が本物のように見えれば満足するであろう。従って準備の時間と実演の時間との釣合いが，第一学年の時とは違って來る。彼等は比較的短時間で演ぜられる劇の準備のために，読書や工作組立の研究や，絵を描いたり，練習したりに，かなり長時間を費やすことであろう。

兒童が大きくなるにつれて，劇の準備に費やされる時間が長くなり，劇そのものに使われる時間が少くなる。兒童の自意識が強くなるので，級友や教師の前でしくじることを氣にするようになる。そこで，自分の役が充分立派にやれる自信が出來てからでないと，実演しない。劇は自然でなくなる。高学年の生徒が明治時代の或る事件を劇化したいと思ったら，その事件について学ぶために読書し，衣裳や場面を準備する参考として絵を検べ，彼等が扮しようとする特定の人物について知るために傳記を読むであろう。彼等は台詞（せりふ）を書いて覚える。自意識が自由な想像力の妨げとなるので，彼等が演ずる役割に

なり切る補助として，より多くのそしてより良い衣裳や道具が必要になる。そこで高学年では，劇化の欲求が正確な工作，組立や藝術的表現や深い研究への主な動機となるのである。

4. 劇遊びによる学習効果

社会科に於ける劇は，学習の6個の衝動の中の一つだけを満足させるものと考えることは出來ない。何故なら劇は直接，間接に総ての衝動の満足を生來するからである。

兒童の劇遊びは彼等が教科内容や社会の原理をどの程度まで把えているかを，判定する良い手懸りを教師に與える。彼等が教科内容をどの程度把握しているかは，彼等が云ったりしたりする事柄で明らかであり，社会の原理をどの程度把握しているかは，遊び仲間に対する行爲や，自分の義務に対する態度で明らかであろう。

附　　錄

兒童の生活

現代は物質尊重の時代である。そして吾々は子供に物質的な欲求を満足させる才能を助長させようとばかり熱中しているので，善良な性質の樂しみを味わう精神を抑圧してしまう虞がある様な恐るべき危險がある。快活な性質は金錢にはかえ難い程大切なものである。快活な性質はどんな場合でも役に立つものである。快活な人は自分が愉快であるばかりでなく，他の人をも愉快にさせる。快活な子供は遊び友達に大概好かれるものであって，成人した時に，その人の人格が快活な幼時の氣質に劣らぬ善良なものであるならば彼はどんな会合にもきっと皆から歡迎されるに違いない。就職の場合にも，雇主は求職者の中から此の幸せな氣質を持って居る人を見出して呉れるであろう。

此の幸せな氣質を養成する時期は幼年時代である。凡ての“樂しみ”を馬鹿げた事だとしりぞけてしまい，仕事第一主義を强調する誤りを犯して居る人が非常に多い。此の間違をする人は，人生が與えて呉れる最も貴重な恩惠の一つ——もし正しく求めんとするならば最も容易に得られる財產 —— を取り逃がしているものと言え

る。生活の最少限の必要が満たされた後に家庭の人が最も望むものは，善良で古風な樂しみである。樂しみということを最少限の必要な物の一つだと定義しても大した間違ではない。

幼年時代を束縛してはならない。專ら年長者と交際している子供の多くは自分で樂しむ事を学ばないのである。そして後年になって自分の幼年時代が悲しくも缺けていたと感じるものである。斯る人々は本当の意味での子供ではなかったのである。此等の人々は大人になると社交的な会合ではいつも「相手にされない人」(置れ残り）になってしまう。自分や他人の樂しみに全力を盡す事をしないで，自分を樂しませる事も出來ず，自分の樂しみに関係する他人の苦痛の種となる。斯る人々は遊びをする事を学ばなかったので樂しみに参加する事が出來ないのである。

娯樂の目的は家庭を造る時眞面目に考慮に入れねばならぬものの一つである。賢明な母は丁度子供等にパンを與える様に，子供等に幸福な思想を與えるものである。又子供等の日常の経驗に笑と愉しい会話を與え，多くの暗い環境の中からも明るい面を見る様に指導する。子供等に世の中の凡ての物を與える事が自分の特權だと悟っている母こそ七面八臂の働きをする驚嘆すべき立派な人

物である。斯る母のいる家族は物質的な食物丈で養われるのではなく，その母から與えられる精神的靈的な食物で養われているのである。だから斯る母は味の変ったまずい食物を家庭の者にたべさせないと同じく精神的にも道德的にも滅入らせる様な事はしないのである。

子供に眞面目と言う事の適当な例を示そうとして，或る親達は子供らしい“はしやぎ”をそれとなく非難する。があにはからんや此は樂しみの心を失わせるものなのである。変化こそ生活の刺戟剤であって，吾々は凡ゆる手段を講じて子供の見聞を廣める必要がある。子供等の暇な時間の許す限り健全な娯樂を樂しむ機会を子供に與えるべきである。

世の中には子供の力になってやると言う氣持がなくて家庭の外で子供等の樂しみを見つける様にしむける親達が多くいるものである。家庭の中で自分等の樂しみを見出す子供等は墮落する事は恐らくないであろう。若い人達が大変好きな或る老人は自分の家庭の夕べの集りに若人達を集らせてトランプ遊びをさせた。“惡魔はトランプがある所にいつも居ると言う事を知らないのかね”と隣人が言うと“いいや，よく知っているとも。若人達を私の家で遊ばせるのも其の爲なんだ，こうして私は若人達を見張っている事が出來るのです。”とその老人は答え

た。子供が辺鄙な所へ住んでいて社会と交る機会が少ないかどうかは子供にとって大した不利となることはない。斯る場合には家族は子供達自身の世界を作り，子供等自身の遊びを創造してやればよいのである。

どんな境遇にあっても，害のない楽しみはどんな形のものでも子供の眼から外らしてはならない。生活の喜びを家族の者に秘密にしてかくして置くような事をしてはならない。遊びやその外の家庭での楽しみの中には精神的—そうだ，それに霊的な一発展がある。“おにごっこ”や“かくれんぼ”のような子供の頃の遊びの記憶は芝居や公的な社交を忘れてしまった遙か後になっても，吾々の記憶に残っているものである。

吾々は子供達の生活が円満なそして充実したものたらしめんがための役目を果すべきである。善い事に対する道は閉ざされたままにして置いてはならない。子供等を円満な人格者に育て上げる最良の方法の一つは，仮令どんな境遇に置かれても，彼らがうまく彼等の義務に合致した際にいつも見出すと同じような健全な喜びと楽しみを見出す様に子供等を激励する事である。

兒童の興味

My Weekly Reader, Issue 5, page 20 所載の"興味の目錄"は，統計的に表にすることは出來ない。この目錄の價値は，各兒童の個人的および社会的関係と，一般にはクラス全体についての適切な事実を明らかにするにある。

その答は明らかであろう。それは教師が個人的会見や一般の学級討議において熱心に從事するいとぐちを示唆するであろう。この目錄について学級と討議したあとで，教師は以下にあげられたような，兒童の生活を指導し，拡充し，豊かにするようないろいろな経驗を得たいと望むであろう。

1. わたしのおうちの人

子供たちは"家族の感情"を必要とする。"興味の目錄"のこの項目は，日々の子供との個人的接触と家庭訪問によって補足される。この人間関係の領域は，My Weekly Reader に載る毎週の Oscar のメッセージにのべられてある。Oscar の Good American Club の一員として，子供は家庭での責任（ほご籠のほごを捨て

る，食事時のお皿をならべるお手傳い，幼い弟妹の世話，ごはん時におくれないようにする・・・）を引受けるように指導され，自分が家庭の大切な一部であると感ぜしめられることが出來る。

家庭内でいろいろなプランを立てたり，問題の解決を講じたりする際に，子供たちはこれに加えられないことが屢々あるが，毎週，My Weekly Readerにのるニュースについて両親と討議することを奬励することによって，子供たちが家庭討議（いろいろな相談事）に参加するよなう道を開くよう，教師は助力するがよい。

2. わたしのお友だち

子供たちには友人が必要である。一人の兒童の友だちが誰か，そして何故彼がそのような特定の子供を好いているのか，を知ることは，その兒童について教師がよりよく熟知する助けになる。

彼らの興味は似ているか？彼の友だちがリーダーで，彼はその服従者であるのか？それとも彼がリーダーであって，常に他の者を支配しようと欲しているのか？

かって一度もあそび友だちPlaymateをもったことのない兒童には，他の者と遊んだり，やったり，とったり切磋琢磨することを教えてやらねばならない。教師は，室内ゲーム（競爭と活動の両方）と戸外のゲーム（鬼ご

っこ，ボール遊び，歌，ゲーム等）を組織することによって，兒童が他の者と共に遊ぶのを大いに助けることが出來る。

競爭的な，勝負のあるゲームにおいては，ほぼ同じ能力の兒童たちを集めて，どの兒童にも勝つ機会を與えることが望ましい。リーダーのいるゲームにおいては，けんかを好まない子供がリードし，けんか好きな子供がついていくような機会を與えるように氣をつけたらよい。かくして內氣な子供たちも自信を得るし，けんか好きな子供も必ずしも中心人物でないことになる。

遊び友だちのない子，グループからうけ入れられない子供もあることがあろう。しかしもし彼がゲームで優越することが出來れば，彼は有名になるかもしれない。同様にいくつかの特技をもっている子供も，屢々有名となる。教師は，兒童に何か特技をするよう奬励し，或る期間の間，そのような特技をふるう時をとっておくことが望ましい。

3. わたしのペット（愛玩物）

子供たちは　直接経驗　を求める。子供たちはいろいろなペットをもっている。いつか一日それらのペットを教室につれて來させなさい。そして一年生から六年生までのペット展覽会をやりなさい。

オハイオ州のレークウッドのシュー・グロッセン嬢と彼女の生徒たちは，学校への不断の來客として，いろいろなペットを持っていた。白い大きなりすをおりの中へ(戸をいつも開いて)飼っていた。彼は週末には両親からの招待狀をうけて，兒童の家庭を訪れる。一匹の黒いペルシャ仔猫が，数週間，学級の仲よしであった。黄色いカナリヤのディッキは，子供たちがしごとをしている間，いい声で歌うのである。これらの教室での経驗は，子供たちの学校生活を豊かにする。彼らは世界が美しいもの，よきもので満ちていることを学ぶのである。

4. わたしの本や読み物

兒童は多くの分野で，実際の自分の経驗に代る経驗を必要とする。この点では，教師は兒童の興味や自由読書のレベルについて，多くのことを発見する。この知識をもとにして，教師は兒童の欲求に合った読み物を正しく選んだり，子供の興味を適当な道にみちびく用意をする。兒童が自由に行って読める，恰好の本を備えた図書机は，たとえ学校図書館があったにしても，どの教室にも必ず備えられるべきものである。(学級文庫)

子供たちが，自分の家から持ってきた愛読書を集めて陳列する書籍品評会は，兒童の読書の興味をそそるのに役立つ。

おもしろい本についての批評は，いろいろ変った方法で行うことが出來る。ある時は，子供は自分の読んだ本に出ているおもしろい出來事について話したり，本に出ている或人物の扮装をしたり，物語りや劇化をしたりすることもある。又最も興味をひいた出來事の絵を描くかもしれない。あるグループの子供たちは，本からとった或る場面を劇化するかもしれないし，他の教室に行って，読んだ本についての知識を交換するかもしれない。

もしも兒童が，正しい種類の漫画を読んでいなかったら，教師は興味を指導するために，いろいろなすことがある。價値のある漫画をクラスにもって來て，或種の漫画は正しく，他の種のものは正しくないことをグループの子供たちに判らせる助力をするがよい。

5. わたしの趣味と蒐集

子供たちは働いたり，遊んだりすることを欲求する。小さい子供でも，ものを集めるのが好きである。教師は子供たちを指導して，蒐集から正しい趣味を育てるべきである。かくて價値のある趣味をとおして，兒童の趣味は拡大される。蒐集や趣味の陳列をせよ。子供たちは集って，自然，美術，飛行機，人形，おもちゃの機械，本の蒐集，釣‥‥の“趣味のクラブ” Hobby Clubs を作るかもしれない。

全校趣味発表会の開催も可能である。

これらは，いろいろ異った年齢の子供たちに，一所に集まって，共同に事をなす機会を與え，かくして全校内に社会的雰囲氣を拡げることが出來る。

学校集会においても，“趣味のクラブ”は，学校全体と関心を共にし得るかもしれない。

6. わたしの旅行や冒険—自然，小旅行，旅行

子供たちは冒険を求める。子供の関心を用い，拡げ，豊かにするために，教師は，先ず子供の既得の経験について知る必要がある。兒童の関心はコンミュニティ（市町村）の中でおこるから，そのコンミュニティに役立っているいろいろな場所（たとえば，飛行場，郵便局，パン屋，市場，牧場，消防署‥‥への）社会見学小旅行 Trip がなされるかもしれない。

このような小旅行は，前もって，よく手はずをととのえて，計画を立てねばならない。

いろいろな目的をもつ，自然観察小旅行 Nature Trip は，いろいろな時に，子供に周囲の世界についての関心をもたせるために行われる。

7. わたしの映画やラジオ施設

子供たちは指導 Guidance を必要とする。

この“興味の目録”の示す所によれば‥‥子供は，学

校での活動に興味をますために用いられ得る，映画やラジオプログラムの選択にあたっては，すぐれたえらび方をしている。彼の興味は標準以下である。彼は一週間に映画を余り多く見すぎる‥‥。

このような知識は，教師が子供の興味を適当な道に導く上にも，又余りに多くの映画を見るよりはもっと興味があると立証されるかもしれない仕事 Work に子供の興味を向わしめる上にも，大いに助けになるものである。

多くの学校は，カリキュラムの補助として，映画とラジオプログラムの両方を用いている。教師は，州の教育局から，ラジオプログラムや利用出來る映画フィルムについての知識を得よ。

映写機やラジオを学校にそなえることに，P・T・Aの関心を向けよ。

8. わたしの好き，嫌いとわたしの希望

児童は指導を必要とする，子供の好き，嫌いを知ることは，屢々特殊の問題解決へのいとぐちを與える。

このような問題をよく議することによって，児童は自分の心配が根拠のないものであることに氣づくかもしれない。 彼は友だちにからかわれるのが嫌いかもしれない。しかし，わるぎでなく，明るいきもちで，からかわれているのだということがわかれば，からかわれること

も，何ら氣にさわるものではない，ということを示されたら，からかわれることを恐れる氣持もすぐに消えるであろう。

ああって欲しいとか，ああしてもらいたいとか‥‥いう子供の希望をよく調べることによって，教師は子供がどんな心配や恐怖をもっているかを探知することが出來る。たといその希望が精神的なものでなく，物質的な事物に関係している場合でも。教師は，兒童に理解ある態度で接することによって，兒童を助けて，これらの恐怖にうちかたせることが出來るのである。

学習班の編成

長い間，学校は児童の年齢によって組を分けていた。これは，ある年齢では児童の能力や欲求は大体同じであるという説に基いているのであるが，この説は全く誤っていたことが立証された。即ち今日では，同一学年において，児童の能力や欲求に廣い幅のある事実を認めざるを得ないのである。

そこで，児童の読書能力や其の他の欲求によって，同学年の児童を更に幾つかの班に分けることは，教師に，一時に小数の児童と共に働き，各児童の個人的な欲求にこたえ得る機会を與えるものである。それ故，進歩的な小学校では，分化した指導を行う目的で，いろいろな型の班の分け方を実施している。

(1) 読書の技能を発展せしめるための班別

これは，テスト（標準化された，又は形式ばらぬ）又は教師の観察，又はその両者から得られた資料に基いて作られる。その年度の初めにあたっては，この読書班別は一～三学年に於いて三つ，四～六学年に於いて二つの班にしか分けられないかも知れないが教師が，，児童の能力や個人的欲求をよく知るようになれば，もっと小さい班

（普通５人以下）に分け得られるだろう。かくして各班は，夫々その班の要求に適合した読書の選択と割当を受けるのである。ここに大切なことは，この班別は固定的なものであってはならないことである。児童の興味と欲求に應じて度々班の組みかえをする程融通性に富んだものでなければ，せっかくの班別も充分なる効果をあげることは出來ないだろう。

(2) 音読能力を養うための班別

この班の分け方は，児童の欲求に基いた音読指導がなされるよう，そして教師が必要に應じて直ちに児童に対して注意することの出來る機会を得られるようになされねばならぬ。三班組織計画がしばしば採用されるが，それは児童の音読能力に基いたものである。所謂支那式音読法は，二～六学年向きにはすぐれたものである。さてクラスは，児童の音読能力によって五～六の班に分けられ，各班の教材は，その班の成員の目での音読能力に適したものでなければならぬ。そして最も音読の上手な者が，その班の指導者となり，各班は音読を樂しくやれるように教室のいろんな所に集り，指導者が必要に應じてよ助を與えながら，他の児童が代る代る読むように注意する。その間，教師は，班から班へ巡廻しつつ臨機に必要な指導をなすのである。

(3) リクリエーション的に音読するための班別

これは，あくまで児童の興味に基いて作らるべきである。リクリエーション的音読の最大の動機は，或る個人的な満足を得られるように何か読んで見たいと云うところにある。そこで，先ず学級文庫の机の上に，児童の目をひくような本を一杯集めて，どの児童も読んで面白そうな本を自由に選ぶことの出來るようにしてやらねばならぬ。かくして教師は，児童達のえらぶ本を注意して見ることによって，児童が一しょに好きな本を読めるような班を作ってやることが出來るのである。然しリクリエーションのための読書は本來一人でなされるべきであり，各班毎にそうされるであろう。

(4) 理科や社会科のための班別

これは，大いに興味に基いてなさるべきである。多くの場合は，クラスは一つの大きな班となって，一しょに活動すべきである。その場合というのは，(イ) 一つの單元に入った時，(ロ) クラス全体に関係する問題の生じた時，(ハ) 委員会が経過を報告して，興味や経験や知識を外の者に分ちたいと思った時，(ニ) 單元の最後の学習活動の間，などである。然し普通に委員会と考えられている班は，問題の起るごとに作られるであろう。若しもこれ等の班が適当に作られて，よく指導せられたら，どの児童

も，自分達は全体にこうけんしつつある班の重要な部分であることを感ずるであろう。

以上，各種の班別に就いて述べたが，これ等班に於けるいろいろ違った指導の共通の観念は，一つのクラスの全兒童に対する平等の学習の機会ということに基いているから，どの班別の計画の成功も，融通性を缺いては達せられないのである。ベッツ博士は，この班別の融通性に就いて次の理由をあげている。(1) 興味ある教室における学習活動は常に変化する。そして，ちがった型のこうけんを必要とし，目的達成にはちがった機会を必要とする。(2) 融通性ある班別は，調和ある関連をつくり，クラスの成員間の社会化に対する機会を與える。(3) 融通性ある班別は，教室の全学習活動に於いて平等の学習機会を與える。

教室環境の整備

あなたの教室の環境は，多くの点に於てそれが全く同一の物である所の人格，市民たる資格及び精神的な價値の陶冶に役立つ事が出來る。早速今日から共に生活し勉強する刺戟的な学校環境の計画を生徒と始めなければならない。次に提示した事項は，僅かな又は殆んど費用をかけなくて計画し得るものである。

1. 陳列と貯藏の棚

陳列と貯藏の棚はオレンジの空箱や，その他の空箱を利用して作る事が出來る。人の目につく様な鮮かな色彩を施すとよい。そして今のうちから良く働く習慣をつけておくべきである。

2. 人目につく写眞

雑誌や廣告等から季節に関するものや特に面白いと思う様な写眞を切り抜いて台紙に貼りつけして掲げるのは教室を明るくするのに役立つ。

3. 読書する場所

子供達が読書しに行く場所には，興味ある本や机，腰掛等を取揃えた読書室を作る事が是非とも必要である。

4. 掲　示　板

子供達の画いた図画や作品，趣味や写真に関した新聞の切り抜き記事等を掲げ得る掲示板は是非備えねばならない。

5. 科学研究の場所

自然の美や，科学の神秘に関心をもたせる爲のあらゆる種類の自然や科学の対象物を陳列したサイエンス・テーブルは教室に興味をそえる。

6. 壁 新 聞

黒板に沿って大きい紙を貼り，壁新聞を作る。これを幾つにも区分しておく。子供達は一日の内で自分の暇な時に壁新聞にのせる簡單な話，経験又はニュース等を書くことに用いる。

7. 絵様帯(フリーズ)又は連続絵画

その組によって興味ある事柄を図解する爲に絵様帯を作ることは教室を明るくする。

8. 植 木 や 花

子供の手によって美しく飾られ，手入された植木や花は，室内を興味あるものにする。

9. 水 族 槽

クラスの者が責任を以って世話している水族槽は室に興味をそえる。

10. 愛 玩 動 物

クラスの者によって動物を世話すると言う事は楽しい事である。行き届いた世話が强調されねばならない。

11. 画　　架

画架や黒板の余白は子供達が大きな画を書く事が出來て，自己表現を助長するのに役立つ。

12. 工　作　場

子供達が物を作る工作場は興味を添える。いくつかの簡單な道具と工作品かテーブルが必要である。
或は図書館は更に多くの本を必要とし，他の設備が必要であるかもしれない。然し子供達が教室の中を一層美しいものとするのに興味を感じ，熱を持って來れば，親達は子供達と共に先生方の仕事の價値を自覚して來るであろう。そうなれば物質的な諸設備も自然にととのって來るであろう。

教室環境の整備は，よき教師の最も苦心しているところであり，特に荒廃した日本にあっては，一入痛感せられている切実な問題である。アメリカにおける小学校の模式的例を Robert Hill Lane の The Teacher in The Modern Elementary School, 1941 によって見ると

1. 美術のセンター Art Center　画架，塗料，絵ブラシなどをそなえる。

2. 粘土の机 Clay Table　粘土のつぼや道具をそなえて，陶器や彫刻などをするための防水布をかけた机。

3. 音樂の机 Music Table　低学年ではリズムバンドのための道具，上級学年では家で作った樂器などをそなえる。

4. 読書のコーナー Library Corner　自由に読める本をそろえた机，よく本を揃えてある書棚。

5. 工作台 Work Bench　木工や金工の道具をそなえる。

6. ガスプレート，流し，戸棚。簡單な料理の経驗を與えるための設備。

7. 科学の机 Science Table　植物を育てたり，植物に関する実驗をしたり，蒐集したものや，その他の植物をならべたりするところ。

8. ゲーム台 Game Table　西洋將棋やその他，氣軽に遊べる簡單な遊び道具をそなえてあるところ。

9. 移動小舞台 Small Portable Stage　國語の音読，簡單な劇化，ラジオ放送のためのもの。

10. タイプライター机　ポータブルの，又は標準のタイプライターを一二備える。

11. 掲 示 板　注意事項，展示，時事ニュース，計画

などを貼る掲示板をどの教室にも備える。

12. 簡單なプレイハウス Playhouse　兒童がいくつかの部屋を，手早く，手輕に排列をかえることが出來るようなプレイハウス。家ごっこや，郵便局ごっこなども，こうしたプレイハウスから立体的なもの，現実のものとして発展出來る。

13. ブロック遊びの設備　いろいろな大小さまざまの木塊ブロック，それからそのブロックの不要のとき收めておく場所。平面的に，又立体的にブロックを並べるたのしみは兒童にとって深いものである。

このように，いろいろな Work-center を教室内に設置して，兒童はさまざまの学習活動をのびのびとなし得るように考慮されている。

吾々は日本の現狀に鑑みて Weekly Reader の示唆する方向に從って，教師と兒童の創意と協力によって，金をかけないで，自らの手でよき教室，たのしく美しき環境の構成にあたることが肝要である。縣や市町村やP・T・A に設備の充実を叫ぶとともに，こつこつと自ら労作して，眞に“私たちの教室”といえるものを作ることが望ましいのである。

読書指導

十一月十四日から二十四日迄はアメリカの読書週間である。吾々は，兒童達に読書週間がよく認識されるためにいろいろと計画をたてる時間をお持ちになることが出來るように，二三の示唆を先生方にさしあげたい。

1，陳　　列

小冊子を置く板(ボールド)に，美しい色刷のブックカバーを陳列しよう。毎日，読書机の上に何冊かの新しい，人目をひく，おもしろい書物を置こう。

2. 藝　　術

愛読書からいろいろな場面をとって絵を描こう。そしてクラスの子供たちが，どの絵はどの本を参考にしたか本の名をあてさせる。栞や藏書票やポスターをつくったり，陳列したりしよう。

3. 謎　　々

「わたしは誰？」子供たちの委員会で，或る本の特徴を述べた，簡單な説明のことばを幾つか考える。クラスのものや親たちのいる前で，このゲームをするためにティームを選んで，「わたしは誰でしょう」の謎々をやる。本の名からつくった文字謎をこの遊びに加えてもおもし

ろい。

4. 釣り合のとれた本の読み方をするために

子供達みんなに一方に偏しないでいろいろかわった本を読むことをすすめる。「あなたの愛読書は何ですか」とたずねる。黒板にその本の名の表をつくり，次に，冒険物，科学，自然，傳記，詩などと，みんなで分類をする。それから各々の兒童は自分のノートブックに上の見出しを写す。そして一定の時間内にいろいろな方面の本を，何と何‥‥を読んだかを見せる。

5. 書　　評

聞いている者が本を読みたいと思うように書評をしていますか。もしそうであればよい書評である。自分の読んだ，一読に値する本を，くみの者に，よく知って貰えるように，その本から短い場面をとって，劇にして見る。その本に出ている出來事の話をしたり，特に顯著な特色について述べたり，同じ本を読んだことのある級友と，その本についておさらいしてよく覚えた会話をつづけたり，それについて討議したり，その本の價値を評價したりする。

以上のような諸種の活動が，教師のよき指導と助言によって，子供達の手で実践されるとき，読書週間の目的

は充分に達せられるであろう。この際にあっても，單なる訓話や說教よりも，はるかに多く教師に期待せられるものは，兒童の活動をのびのびと拡大せしめ，その表現意欲と協同精神とを滿足させる計画であり，指導である。

読書週間のホーム・ルームにおける意義というものは充分に認識せられ，活用されることが肝要である。読書のたのしさ，読書の意義，一冊一冊の書物の內容と外観における個性，書名のつけ方，裝幀，用紙，印刷‥‥にとどまらず，內容の絵画的，文学的，演劇的‥‥の手段による再表現は，兒童をして心から読書のよろこびを味わせるものである。

かくてこそはじめてポスター作りの作業やその他の行事的な活動も眞に子供たち自身のものとなるのである。

書評も低学年においては，主客対立の形においてでなく，むしろ主客一味，読書三昧に入らしめることから始まり，その全体若くはその最も興味ある部分の賞美や說明，價値づけに重点をおくことが望ましい。対話や劇や絵画などはこの点に於て兒童にふさわしいアクティビティである。

教科課程（カリキュラム）

(1) 統一課程，綜合課程，中心課程 (Core Curriculum)

統一課程と云うのも，綜合課程と云うのも，中心課程と云うのも，結局同じである。最近小学校及び中学校では，綜合課程，即ちコーア・カリキュラムが発達した。此のコーア・カリキュラムは，生徒の興味と必要，生徒が当面している（又は將來遭遇すべき）問題，生活狀況等に基いて形成されるのである，コーア・カリキュラムの範囲を決定する爲には，まず人間活動の分類研究が必要である。

O. I. フレデリック氏（"Areas of Human Activity" 1937）は38個の人間活動又は生活領域を分析した結果，人間活動を，次のような九つの生活領域に分けた。

1. 生命及び健康の保持
2. 家庭の生活及家庭の改良
3. 物質的條件の保全及改良
4. 社会的及び公民的活動への協同
5. 生計を立てること
6. 教育の確保

7. 宗教的衝動の表現

8. 美の享受及表現

9. 娯樂

つまり，凡ゆる人間活動は結局以上9種の分類の何れかに，入ると言うのである。

ハラップ氏（"The Changing Curriculum" 参照）は，30の社会活動及び生活領域を分析研究した結果，教科課程の範囲を決定する基礎として，以下の8項をあげている。

1. 家庭内に生活すること
2. 公民たること
3. 組織された團体生活
4. 交通
5. 運輸
6. 生産
7. 消費
8. 余暇

更に之を要約すると，次のようになる

1. 個人的生活
2. 直接的個人—社会関係
3. 社会—公民関係
4. 経済的関係

(2) 教科課程の配当

教科内容を各学年に配当するのに考慮すべきことは，次の通りである。

1. 内容の難易
2. 該学年生徒の興味と必要
3. 生徒の成長の程度
4. 適当な教材が利用出來るか否か
5. 教科課程配当に関する教育思想の傾向
6. 他の学校に於ける教科課程配当の傾向
7. 生徒の進歩の程度

以上の諸項を考慮して，教科内容を各学年に配分するのであるが，一学年より十二学年までに亘る各学年の教科の中心は概ね次の如くしたがよい。

（小学校低学年）自然的及び社会的環境をよりよく知ること

一学年　家庭及学校に於ける生活

二学年　直接に接する社会内の生活

三学年　縣，州，國に於ける生活

（小学校高学年）自然的及び社会的環境が生活に及ぼす影響を理解すること

四学年　色々な自然的環境が生活に及ぼす影響

五学年　旅行，冒険，辺境地が生活に及ぼす影響

六学年　言語，科学，政府，社会施設，社会制度が生活に及ぼす影響

（下級高等学校）自然的及び社会的環境に適應し且つそれを利用すること

七学年　家庭，学校及社会に適應し，それを利用すること

八学年　科学的発明及機械生産に生活を適應させること

九学年　科学及社会的施設，政府施設を公衆の福祉に利用すること

（上級高等学校）自然的及び社会的條件を調整し改良すること

十学年　生物的及社会的條件を調整し改良すること

十一学年　自然的，経済的及産業的條件を調整し改良すること

十二学年　主要なる科学的，社会的，経済的，産業的，政治的運動及び傾向を理解すること

尚カリフォルニヤ州のサンタ・バーバラでは次のような，関心の中心が，各学年の課程プログラムに用いられている。

幼稚園及一学年　直接接する環境内に於ける自己適應

二学年　郷土（コンミュニティ）への適應

三学年　自然的環境及び調整された環境が郷土の生活に如何に貢献しているか

四学年　現代の文化群が如何に，我々の郷土生活に適合しているか

五学年　現代の文化群が，昔のそれに比べて，如何によくサンタ・バーバラ及びカリフォルニヤに於ける人間の基本的作用に貢献しているか

六学年　合衆國に於いて，人間の営みする上に利用されている基本的近代技術

七学年　急速な社会的経済的変化を惹起し，且つ世界中の人類の相互依存を増進するような，より新しき技術

八学年及九学年　より新しき技術及発見を生物的及無機的環境にもっと賢明に利用すること

十学年，十一学年，十二学年　アメリカの理想に一貫する價値の認識

(3) 学習單元 Units of Work

学習單元には二種ある。即ち教科内容單元（サブジェクトマター・ユニット）と経驗單元とである。

A. 教科内容單元とは普通の教科書の或る章若くは主

題，題目，原理，法則等を中心にして教科内容を主体にして纏められた單元である。或いは空氣，或いは水，空，氣候と云うようなものを中心としてまとめられた單元のことである。

B. 経驗單元とは生徒の興味の中心，彼等に必要と感ぜられたもの，彼等の主なる目的，若くはそれらの結合に基いて纏められた單元である。

(4) 経驗單元の作り方

現在初歩小学校で用いられている経驗單元はどんなものであるか実例を挙げる。

玩具，犬猫などの愛玩物，季節，庭園，温室，家庭，農園，小舎，着物，食物，食物は何処から來るか(酪農，製パン所，青物乾物屋，市場，小麦，ミルク）都市の街路，学校，市町村役所等，教会，図書館，町の公務員，公園，運動場，動物園，交通（飛行機，ボート，列車，自動車）私達は家や学校でどんな保護を受けているか，家や学校で私達はどんなにして遊ぶか，保健，郷土を立派にすること。

第五学年の單元の題目は概ね次の通りである

重要都市の発達，農業，鉱業，漁業，林業，森林の愛護，製造，住居，着物，探險，旅行，娯樂，家庭，防疫，

植物や動物は何故その場所を選んで住むかを知ること，我々の郷土は如何に技術を表現しているか。

第八学年及第十一学年に於ける経験單元の題目の実例をO.I.フレデリック及ルーサイル・J.ファークエアの「人間活動の領域」(1837年新刊) O.I.フレデリック及L.P.マッセル・ホワイトの「第一学年より第十二学年までの学科中心」について示そう。

第8学年　強調(エンファシス)の中心——科学的発明及び機械生産に生活を順應させること

生活の問題——

機械の発明及び利用，家庭を科学的発明及機械生産に調和させること，近代的発明を教育手段の改善に利用すること，機械時代にふさわしい新しき技術に順應し，且つ之を利用すること。

第十一学年

強調の中心——自然的，経済的，社会的，産業的條件（学年に應じ我州，我國，他の國々と段階的に発展させる）を調整し，且つ改良すること。

生活の問題——

工業労働者の身体的及び精神的健康の保護，天然資源の維持と開発，物資の交換，物資を有用に消費すること，社会的施設の活用により経済的及び産業的條件を改善す

ること，興行娯樂機関の調整と改善。

コロラド州のデンバーでは次のような單元が第十学年に用いられている。

学校の我々の生活に於ける地位，宣傳の識別，映画，ラジオ，新聞雑誌による知識的及美的趣味の拡充，近代家庭に於ける人格的関係及び收入，精神的及び身体的健康の個人的様相，青年男女関係，都市に於ける團体活動。

教科書（テキストブック）

植民地時代に使われた教科書は，英國から輸入されたものか，或はその複刻版であった。だから教科書の数が至って少く，全部同一書を揃えることが出來ない場合があり，或る生徒は，甲の教科書を持って來る，或るものは乙の教科書をもって來ると言った按配で，授業にも大いに骨を折った。1800年頃迄には，英國渡來の教科書は全く見られなくなり，19世紀の最初の四半期は米國製の教科書の濫発期であった。算術書，文法書，読本の外，歴史，地理，理科その他の教科書が続々出て來たが，何れも欧洲の教科書の模倣で，何等新し味はなかった。要するに知識の概要を盛ったもので，各教科に関する知識を論理的順序に從って羅列したに過ぎず，兒童の経驗とか，興味とかに関する教育的顧慮は全く拂われていなかった。

教科書検定 appraisal の制度が進んだのは 1900 年以後のことである。米國で教科書検定が如何に行われているかを見るには，J. A. クレメントが "General Analyses and General Appraisal Outline" の中で，中学校 Secondary school の教科書検定について示している基準を見ればよい。即ち以下のような諸項目について，教

科書の優劣を勘案するのである

Ⅰ 著者及著者の立場

1. 著者の該教科に於いて取っている立場及理論，或いは著者の全体としての教育観

2. 著者がその教科書を書くに至った直接の理由

3. 著者の学歴及び経験

4. 著者が教科書編纂に当って採用した記述の方法

5. 著者が教科内容を提示する方法と分り易さ

Ⅱ 教科書の本文に載録されている教科内容の一般的性質及組立て方，並びに教授方法に関する附随的示唆

1. 教科書の性質を左右している目的及び影響

2. 教科内容の組立て方，列べ方

3. 何処に重点を置き，何処を詳しく記述しているか

4. 内容を説明する爲めに用いられている絵，図，グラフ等

Ⅱ 教授上の補助

1. 目次，索引等

2. 教科書についている補助的学習帳 workbooks

Ⅲ 教科書の外観及び体裁

1. その教科に充てられる時間数に比較しての教科書の分量の適否

2. 製本及び表装の優劣及び丈夫さ

3. 用紙の質及び仕上り

4. 刷り上りの優劣，活字の鮮明さ

5. 図解，グラフ，絵などの置き方が適当であるかどうか

V 出版及び出版者

1. 初版の出版年月

2. 改訂版の性質

3. 教科書の名

4. 教科書の特徴，長所宣傳に関して出版者のとっている方法手段

以上の諸項目について，教科書の適否を検べるのであるが，評定にあたって二つの方法が取られる。一つは，各項目について，劣 poor 可 fair 良 good 優 very good 秀 excellent の評語をつけ，これを綜合して判定する方法と，一つは各項目について一々評点をつける方法である。評点をつける場合は，450点満点とし Ⅰ 著者 75 点 Ⅱ 本文 225 点 Ⅲ 補助 100 点 Ⅳ 体裁 50 点とするがよい。何れの方法に於ても，V 出版者については採点の中に入れない。

以上の方法は現在相当廣く行われ好成績を挙げている。しかしこの外に教科書判定の方法がないわけではな

い。

オハイオ州シンシナチー市に於ける検定基準は次の七項目である。

1. 内容の正確さ，適否
2. 組立て方が統一がとれ均衡がとれているか
3. 記述の明瞭さ
4. 生徒によく訴えるか
5. 適当な図解，挿絵
6. 教授についての補助，便宜
7. 外観的な体裁，但し活字の鮮明さ，眼の衛生に対する適否を重視する

又，F. W. ジョンソンが示している標準は次の通りである。

A. 著者の教育，経験，版権獲得年月，著者の立場及び記述法等を含む一般的考察

B. 教科内容（指導原理）

1. 選択—必要度とか重要性とかを考えての取捨選択の適否
2. 組織—如何なる内容を強調しているか

C. 教授に対する補助便益，即ち序言，目次，索引，附錄等

D. 外観，体裁，製本，用紙，活字の良否

教育委員会

まず委員の定員数であるが，19世紀後半頃は，委員の数が非常に多かった。しかし此の期間に委員定数は少い方がよいことが分った。19世紀最後の10カ年間の狀況は次の通りである。

ミルウォーキー——定員36，各区の参事会の任命による。

フィラデルフィヤ——定員37

ピッツバーグ——定員37

シンシナチー——定員30

ブルックリン——定員　中央委員会45，各学校毎に選ばれる地方委員会3人宛

ニューヨーク——定員21

右のように大委員会であったのが，次第に小委員会に移行した。W. S. デッフェンバウの調査によると，50の都市に於ける平均委員数は，1902年—14.2人，1917年—10.5人，1927年—8.2人となっている。全國教育総会 (N. E. A) の調査によると，人口10万人以上の22都市に於ける平均委員数は1937年に於いて7.9人，うち21.3%は5人の委員数，29.3%は7人の委員数，22.6%は9人，残りが3人乃至21人の委員数であった。

委員選定の方法は，以前は市参事会又は市長の任命であったが，次第に一般投票に移って行った。1937年に於いては，人口10万以上の75都市中55％が一般投票，12％が市長任命，1％が市長及市参事会任命，3％が市参事会任命，4％が判事任命であった。一般投票の場合は総選挙と同時に行うのが例である。

次に任期であるが，古くは任期1年で屢々改選された。1902年には2年乃至3年が通例となり，1937年には人口10万以上の都市も小都市も何れも平均4年の任期となり，約3分の1が5年以上の任期であった。

しかし色々のことを勘案して，任期は少くも5年，再選を認めると言うのが理想的と言える。

19世紀には常任委員会が非常に多かった。1890年には70個の常任委員会をもった委員会があった。しかし常任委員会がかく多数であると，結局何れも薄力となるから，常任委員会は少い方がよいと言う結論になった。デッフェンバウによると1917年には人口10万以上の都市41市中，3市即7.3％が常任委員会なし，1927年には55市中21市即38.2％が常任委員会なし，人口3万乃至10万の都市では1917年には9％が常任委員会なく，1927年には25％が常任委員会をもたなかった。一体に，常任委員会をもつところは，年を経るにつれ減じて來る傾向がある。

人口10万以上の都市で10個以上の常任委員会をもつものは，1917年10%，1927年2%以下であった。

委員会例会は毎月1回，多くとも2週間に1回位開催するのが適当であり，之より多いのはいけないとされている。

委員会の権限については，現在，市政府と独立して，学校税を課し，自らの歳入を獲得している所が多い。数十年前までは，委員会は議決機関であると共に執行機関であったが，今日では執行機関としての作用をしているところは少い。

さて教育委員には如何なる人が適格であるか，G.S.カウンツによれば，教育委員は一般選挙による公職者より年長で，1927年に，代表的都市について調査した処，平均年令48.3才であり，内14.3%は女性であった。職業は大部分が商人，次は弁護士，医師，製造業者，銀行家であり，一般に，教育委員は他の一般議員より富裕なものが多く，又教育程度も高い。

尚 J.B.エドモンセン（1937年所刊「教育委員会を成功させる適格者」による）によれば，教育委員の適格として挙ぐべきものは次の通りである。

1. 民主主義には学校教育が肝要であるとの確信
2. 教育の必要性を理会するに充分なる経験

3. 高き知性
4. 健全な判断
5. 正直
6. 眞の協同精神
7. 教育專門家を妨害しないこと
8. 公職の爲めに，時間と勞力とを献げる決意
9. 私腹を肥やさない忠誠心

P. T. A

P.T.A の起りは，幼稚園運動の創始者達が「母の会」"Mother's Club" を学校及家庭の協同手段として奨励したことから始まると言ってよい。

1897年ワシントンでテオドール・W. バーニイ夫人とフィーブ・アパーソン・ハースト夫人との主唱で，米國最初の母の会 Congress of Mothers が開かれた。この母の会を母体として両親と教師運動が発展したのである。1901年母の会の聯合会が開かれ，1906年には機関紙 "Mothers' Congress Magazine" が発刊され，その機関紙は1908年に「兒童福祉雑誌」Child Welfare Magazine となり，1934年には「全國P.T.A雑誌」National Parent Teacher Magazine" として発展した。又母の会 Congress of Mothers と言う名も P.T.A連合会 Congress of Mothers and Parent-Teachers Association となったが1918年，更にそれが全國的な，P.T.A聯邦総会 "National Congress of Parents and Teachers となったのが，1924年である。此の P.T.A は1940年現在で200万人以上の会員をもち，48州2万7千の市町村並びに，コロンビア地域（首都ワシントンの所在する地域）アラスカ・ポルト・リコ，ハワイにまで及んでいる。本部はイリノイ

州のシカゴ市にある。年予算約15万弗は主として出版，給料，旅費に使われる。尤もP.T.Aの仕事の大部分は会員の無報酬奉仕によってなされている。シカゴ本部の仕事を，成功せしめたのも，こうした無報酬奉仕の会員の力である。

約2万7千のP.T.Aは州支部及聯邦総会に連絡して統制のある活動をしているが，この一聯のP.T.Aの他，教師及父母の協同團体は種々あるのであって，この種類を数え上げれば全國で5万以上あろう。此の種のもので最大のものはニューヨーク市のUnited Parents Association of New York, Inc.である。その他，父兄教師協力活動を大きく行っているバルチモアやフィラデルフィアではP.T.A聯邦総会とは独立して，家庭及び学校の会Home and School Associationと云うものを作っている。その他にもまだ学校と家庭の協力活動を目的としている團体がある。National Council of Parent Education, the General Federation of Woman's Clubs, the American Association of University Women等がその好例である。カソリックの学校にはカソリック福祉聯邦会議の指導の下に協同する父兄教師團体がある。黒人の特別学校をもっている州の，黒人学校のP.T.Aは黒人P.T.A聯邦総会National Congress of Colored

Parents and Teachers に連結している。こう言う黒人P.T.Aは21州に亘り5つ余りある。又此のP.T.Aは白人のP.T.A聯邦総会と連絡を取り協同しているのである。

（なお世界的に見れば，國際的團体としては世界家庭及学校聯盟 World Federation of Home and School がある。スコットランドでは早くから父兄及教師協力團体があったが，之は地方的なものに過ぎなかった。英蘭には Home and School Association があり，佛蘭西には La Fédération Nationale de Associations de Parents d' Eleves de Lycées et Colléges があり，カナダにも家庭及学校運動が年々盛んになっている。

P.T.Aの仕事は仲々定義しがたいが，P.T.A聯邦総会と聯邦教育会(N.E.A)が，共同委員会を数年に亘り開催して，示しているところによると，「学校のプログラムを立て，学校を維持経営していく責任が，專ら教育委員会及び学校当局に存することを重視すべきである。P.T.Aは教師が学校のプログラムを遂行するに好都合な市町村の空氣を作ることをその任務とする」としている。兒童保健及び愛護に関するホワイト・ハウス会議は次のように宣言している。「P.T.Aは職業的教育者と非職業的な父兄との間の橋をかけるものであって，之によって，

学校のプログラムの発展により大きな成功を齎すことをその目的とする。」

なおJ.Eバターウァースは，次の六つの目的を挙げている。

(1) 会員に学校の目的及方法を理解させる

(2) かくして理解させた目的及方法を校外環境に適用する

(3) 学校が成功し，又は失敗している点を，或る限度を越えない程度に於いて，指摘し，之に関する意見を具申する

(4) 学校の計画を遂行するに好都合なように学校区内一般を教育する助けをつとめる

(5) 父兄及び教師間の相識を深める

(6) 特別事情による特別資金の醵集

又彼はP.T.Aの越えてならない制限を，左の通り五つ示している。

1. P.T.Aは学校に対し直接的法律的支配をなすことを得ない

2. 学校の財政を負担する責任はP.T.Aにはない

3. P.T.Aは会員自らの不慣れである専門的性質にわたる仕事をすべきでない

4. P.T.Aは教育的な力を有する他の機関に対して

権威をもたない

5. P. T. A は緊急な特殊事情ある場合の外，他の機関の責任下の義務を行うことを得ない

さて1936—37年の年度内に実際に15277の地方 P. T. A がした仕事は如何なるものであろうか。それを次に示そう。

創立記念式，安全教育，父兄教育，修養会，音樂，夏季会合，兒童衛生，家庭教育，協議，映画，兒童愛護，家事研究，美術，公衆衛生，精神衛生，ラジオ，学生援助，國際関係，アルコール及麻酔—その使用と結果，慈善教育，特殊兒童。

次のような分野に於いては父兄と教師の協同作業が充分な効果を挙げうると思われる。

1. 兒童の学校及郷土経験を計画する
2. 教育問題の研究
3. 学校の教科課程の効果の評價
4, 郷土に於ける成人教育の組織化
5. 青年に対する郷土活動の組織化
6. 親子関係の理解
7. 学校に関する，専門教育者及び一般人の関係を緊密にする
8. 兒童及青年の福祉を害する郷土内の影響を制御

し，それに対する対策を講ずる

9. 児童に対する共同的及相関的活動

不許複製

民主主義教育の理論と実際
—特に社会科について—

昭和二十三年十二月 廿 日印刷
昭和二十四年 一 月 一 日発行

著　者　PAULINE JEIDY
編　者　日米教育図書研究会
発行者　松　井　富　一
印刷者　津　川　正　美
印刷所　廣島市南觀音町六一四番地　廣島印刷株式会社

発行所　銀の鈴廣島図書
廣島市南觀音町六一三（振替三〇八八二番）

定價五拾円

HIROSHIMA PUBLISHING CO.